

中国・大連での学びと経験

外国語学部中国学科

2025年夏、私は北九州市立大学のプログラムで中国・大連に3週間の語学研修に参加しました。初めての長期海外生活で、出発前は「中国語はちゃんと通じるのか?」「友達はできるのか?」と不安でいっぱいでした。しかし、実際に現地で過ごした3週間は、語学力の向上だけでなく、自分自身の価値観や考え方までも変えてくれる濃い時間となりました。ここではその体験を、授業・学外活動・日常生活・学びと成長・今後の展望という5つの観点から報告します。

1. 留学先での取り組み

大連外国语大学に到着した初日、広いキャンパスと大きな校舎にまず圧倒されました。最初の1週間は北九州市立大学の学生だけの特別クラスで、午前中は先生がマンツーマンに近い形で発音や単語を徹底的に教えてくれました。

特に印象的だったのは、先生が「你可以的!（あなたならできる!）」と何度も励ましたくれたことです。発音を間違えてクラスが笑いに包まれることもありましたが、先生も一緒に笑ってくれたおかげで、恥ずかしさよりも「次はうまく言ってみたい」という気持ちの方が強くなりました。先生の元気さとわかりやすい授業スタイルがとても印象的でした。単語ひとつひとつを丁寧に教え込んでくれて、そのおかげで文法やリスニングも自然と頭に入ってきました。何より授業が楽しく、「もっと中国語をやりたい」という気持ちがどんどん強くなっていました。

2週目からはレベル別に分かれ、他の国の留学生たちとの合同授業が始まりました。クラスにはイタリア人やロシア人が多く、特にロシア人の中国語レベルの高さには驚かされました。彼らは漢字もゼロからのスタートなのに、どんどん話せるようになっていきます。その姿を見て、私も「もっと頑張らないと」と刺激を受けました。授業は先生との対話が中心で、発表こそなかつたが、簡単な中国語のゲームと一緒にしたり、外国人のクラスメートと交流しながら学ぶことができました。自分から話しかけてみると、みなとてもフレンドリーで、外国の学生と友達になれたのは大きな収穫でした。

午後はほぼ毎日、文化体験がありました。書道や中国結び、そして中国の伝統楽器・葫蘆絲（フルス）の演奏体験も行いました。フルスは瓢箪（ひょうたん）の形をした笛のような楽器で、音色は澄んでいて美しいが、吹くには意外とたくさんの息が必要でした。初めて音が出たときの感動は今でも忘れられません。他にも大連市内の観光や博物館見学など、盛りだくさんの活動が続き、中国文化を肌で感じられた3週間でした。



2. 寮生活と学外での経験

今回の語学研修では、寮での生活も大きな思い出の一つです。2人部屋で、想像していたよりもずっと綺麗で快適でした。特に驚いたのは学食です。3階建ての巨大な食堂には数えきれないほどのメニューが並び、300円程度で食べきれないほどの量のご飯が食べられます。しかも味はどれも美味しいのです。例えば日本で買えば1000円をこえるハンバーガーセットを400円で食べることができます。値段を気にせず食べられるのは本当に幸せだったが、調子に乗って食べすぎてお腹を壊してしまい、薬を飲むハメになったのは良い教訓でした。

現地の学生とも交流できました。日本語学科の学生と友達になり、一緒に食事をしたり、大連市内を案内してもらったりしました。彼は将来、日本の通訳案内士を目指していて、日本語もとても上手いです。困ったときにはすぐに助けてくれ、今でも連絡を取り合う仲です。彼は「来年は北九州市立大学に留学したい」とまで言ってくれて、本当にうれしかったです。また、大連市内への初めての移動では、タクシーに挑戦しました。緊張しながらも運転手のおじさんと1時間ほど中国語で会話し、自分の中国語が通じたときの喜びは忘れられません。しかも英語で話す機会もたくさんあったので中国語以外にも英語を学べてよかったです。

す。これが留学ならではのチャレンジであり、自信にもつながりました。

3. 学びと気づき、そして変化

語学研修の3週目に入ったころから、先生やお店の人、中国人の友達の話している中国語が少しづつ理解できるようになりました。耳が慣れたという感覚で、たった3週間でここまで成長できるのかと自分でも驚きました。

生活面で一番驚いたのは交通ルールでした。信号が青になったからといって安心して渡れるわけではなく、常に車に気をつけながら歩かなければならぬのです。日本との違いを身をもって体験しました。

また、中国での生活を通して自分の価値観にも変化がありました。以前は日本で誰かの意見に合わせることが多かったが、中国に来てからは自分の意見を率直に伝えることの大切さを実感しました。積極的に話しかけるうちに、以前よりも自信がつき、自分の殻を一歩破れたように感じています。実は、この語学研修に応募した理由の一つが「自信をつけたい」だったので、その意味でも大きな成果があったと思います。

4. この研修をへて今後に活かしたいこと

今回の語学研修を通して、外国の人々と交流することの楽しさを心の底から感じました。授業や文化体験ではもちろん、寮や食事の時間、週末の市内観光などで他の国の留学生や現地の中国人と自然に会話が生まれ、その中で「言いたいことが言えないもどかしさ」を強く感じた瞬間が何度もありました。特に、中国人の友達とタクシーで1時間近く話したとき、話したい内容が頭の中にはあるのに、言葉が追いつかない自分がいて、「もっと中国語を勉強したい」と心から思いました。

また、イタリア人やロシア人の留学生とも一緒に食事をしたり、授業のゲームでチームを組んだりして、言語だけでなく文化の違いを知ることもできました。彼らは自分の国のこと楽しそうに話してくれて、その時間が本当に刺激的で面白かったです。これまで海外といえば「中国に留学してみたい」という気持ちだけだったが、この研修を通して「もっといろんな国に行って、いろんな人と話してみたい」という気持ちに変わったのは自分にとって大きな変化だと思います。

この経験から、語学を学ぶことは単なる知識の習得ではなく、人と人とをつなぐ力になることを実感しました。だからこそ、今後も中国語をもっと勉強し、そしていつか英語や他の言語にも挑戦して、多くの国の人たちと交流できる自分になりたいと思います。

